クラス	Q306	担当教員	瀬地山　葉矢
テーマ	臨床心理学的視点から親と子・家族を考える		
著書･論文 研究課題等	著書：「幼児期の子どもへの支援　－巡回指導における保育士との連携－」『心理臨床における多職種との連携と協働－つなぎ手としての心理士をめざして－』本城秀次監修　岩崎学術出版社、2015 年　他 論文：「母親の内的ワーキングモデルは子どもへの愛情に影響するか？」心理臨床学研究　第 33 巻第 2 号、2015 年、共著　他 研究課題：　親と子の関係性の発達、乳幼児とその家族への臨床心理学的介入、子育て支援		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：親子、家族、関係性の発達、子育て支援、臨床心理学

目的と内容

臨床心理学的視点から親と子・家族について深く考え、学ぶことがゼミの目的です。またゼミの仲間とのディスカッション、関連文献の輪読、個人の卒業研究などを通して、臨床心理学的視点から物事をとらえる力を養うこと、自分の考えを相手に伝えたり、文章にしてまとめる力をつけることをめざします。取り上げるテーマは、①親や他者との関係性を基盤にした子どもの発達、②親および家族の発達、③親と子・家族が抱える問題や心理的課題、④子育て支援や①～③に対する臨床心理学的支援や介入、などです。

授業計画等

＜３年次＞

3 年次は、グループワークを中心に取り組みます。昨年度から今年度にかけては、子育て支援についての文献調査等を行った後、「児童虐待について高校生に向けて伝える」こと目標に、さらに児童虐待の事例検討等を重ね、オープンキャンパスにて発表しました。

また 3 年次後期の終了時には、各自の卒業研究のテーマを決めていけるよう準備をします。

これらの作業を通して、親子関係や家族に関する臨床心理学的な理解を深め、同時に、研究の方法、結果・考察のまとめ方など、研究を進めていく際に必要な手続きについて学びます。

＜４年次＞

各自のテーマに沿って、卒業研究を進めていきます。ゼミでの発表や何回かの草稿提出を経て、卒業論文としてまとめます。

担当教員からのメッセージ

○ゼミは、自身の取り組み方次第で、これまで履修してきた講義や演習とはまた一味違った体験のできる場です。充実した大学生活を送るためには、卒業時に達成感を味わうためには、ゼミでどのような活動をしていきたいか、どんなゼミにしていきたいか、まずは自分で考えてみてください。

○ゼミでは、個人の卒業研究以外に、グループでの作業も行います。他者の前で自分の意見を述べること、他者の考えに耳を傾けつつ考えること。これらのことが得意である必要はありませんが、ぜひ挑戦してみたい、取り組んでみたいという方の参加をお待ちしています。

○私自身は、上記の研究課題以外にも、なぜ心理療法（セラピストとクライエントの関係性や対話）を通して、人の心が変容していくのかについて関心をもっています。また、現在の主な臨床のフィールドは、病院臨床（精神科）と保育園です。人の心の深遠さ、不思議さについて皆さんと議論できるのを楽しみにしています。